大村神社

玖島城跡地の大村神社には、大村藩の藩主や祖先が祀られている。大村神社は、最初、一族の祖先である藤原純友（– 941）を祀るために、1805 年、大村家第 10 代藩主である大村純昌（1786–1838）により、玖島城の北東に位置する丘に建立された。藤原は、伊予国（現在の愛媛県）の武人であり、伝説の海賊であった。1870 年、大村家の 12 人の歴代藩主が大村神社に祀られた。

玖島城は、幕府による統治が終わり、明け渡されて廃城となった 1871 年まで、大村家の居所として役目を務めた。その当時、明治政府のもとで日本の近代化のプロセスが始まり、多くの城など、幕府時代の面影は取り壊された。玖島城近くに居所を構えていた旧武家は、大村神社を玖島城跡地に移すための寄付を行った。1884 年に新社殿が完成し、そこで大村家の歴代のすべての藩主が祀られている。

大村神社が移されたとき、約 1,000 本もの桜の木がその境内に植えられた。1940 年代に、大村神社の木の中で、特徴的な 2 つの八重咲種、オオムラザクラ（学名：*Cerasus serrulata* 'Mirabilis'）とクシマザクラ（学名：*Cerasus serrulata* ‘Kusimana’）が見つかった。大村神社前のオオムラザクラの木は、代表標本に選定され、天然記念物に指定された。

大村神社の境内にある像は、大村藩最後の藩主である大村純熙（1830–1882）を表している。純熙は、反幕府軍側で戦い、反幕府軍は、200 年以上にわたる徳川幕府による統治ののち、1868 年の大政奉還で成功を遂げた。1869 年、褒美として、純熙に大村家の統治職が与えられた。